

# 海外における感染症

## 海外旅行にはご注意を

武雄杵島薬剤師会 樺島和行

世界保健機構（WHO）

が1990年に感染症を樂觀視することへの警鐘として発表された新興・再興感染症とは、「かつては知られていなかった、この20年間に新しく認識された感染症で局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」を新興感染症と呼び、また、「認知の感染症で、既に公衆衛生上の問題とならない程度までに患者が減少していた感染症のうち、この20年間に再び流行し始め、患者数が増加したものであるいは将来的に再び問題となる可能性がある感染症」を再興感染症としています。病原体はさまざまで、増加した要因は交通の発達、環境・生態系の変化などがあげられます。

### 新興感染症

エボラ出血熱・大腸菌O157・HIV感染症・SARS・高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）

他30種類以上

今後の課題として、鳥インフルエンザによる鳥から人への感染が発生して、WHOによると2007年3月までに277人が感染し167人が死亡し、今後ウイルスの変異により人から人への感染が懸念されています。

### 再興感染症

腸チフス・マラリア・狂犬病他

先進諸国では致死率は低いが、世界的にみると多くの死亡者を出している。例えば、腸チフスは毎年20

00万人の患者が発生し、約20〜30万人が死亡し、マラリアは3〜5億人が発病し150〜270万人が死亡しています。

昨年、フィリピンで感染し、帰国後発病して日本人2人が死亡した狂犬病は、アジア・南米・アフリカの広い地域でみられ、特にインド、中国では被害が多く全世界で年間5500人が死亡しています。

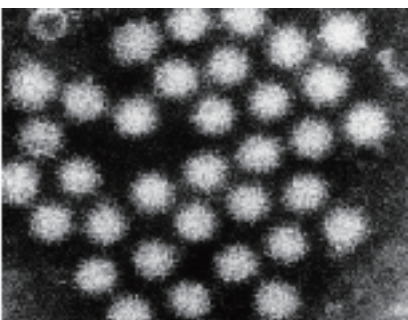
海外においては、数多くの新興・再興感染症が問題となっており、海外渡航の際には十分な注意が必要であります。現在、感染のリスクを下げる方法としては、予防接種（破傷風、狂犬病、黄熱、A・B型肝炎、日本脳炎、ポリオ、ジフテリアなど）・予防内服（マラリア）・水・食事や鳥・野生

動物・蚊等の接触到に注意することが挙げられます。

特に鳥インフルエンザ対策では生きた鳥が売られている市場や養鶏場へむやみに訪れないこと、死んだ鳥等に触れないことが必要です。

また、蚊については多くの感染症を媒介する恐れがあるため、夕方から夜間にかけて外出する際には、虫除け剤や長袖・長ズボンの着用が推奨されています。

毎年、海外旅行を計画される人が多い中、自分自身・家族・周囲の人達への感染を防ぐためにも渡航先の感染症情報をチェックし、安全・安心な海外旅行をするために必要な対策を講じることをお勧めします。



ノロウイルス

「「がばい」 たっしやかプラン21」からのお知らせ  
8月は、「食べんばあ」月間です。

「食」を通じて、こころと体を健康にするために・・・

### 【妊娠・乳幼児期】

- 妊娠期・離乳食のときから食事内容に気を配る
- 会話をしながら楽しく食事

### 【児童・思春期】

- 幼児期から一緒に料理
- 親子でバランスのとれた食事
- ジュースやスナック菓子や甘いお菓子の取りすぎに注意

### 【青年・壮年期】

- 親子で料理を楽しむ
- 規則正しい食事を心掛ける
- 味付けを薄味にする
- 食事や食品に関心をもとう

### 【高齢期】

- 自分にあつた食事の内容や量を取り、薄味に心掛ける
- できれば、家族そろって食べる